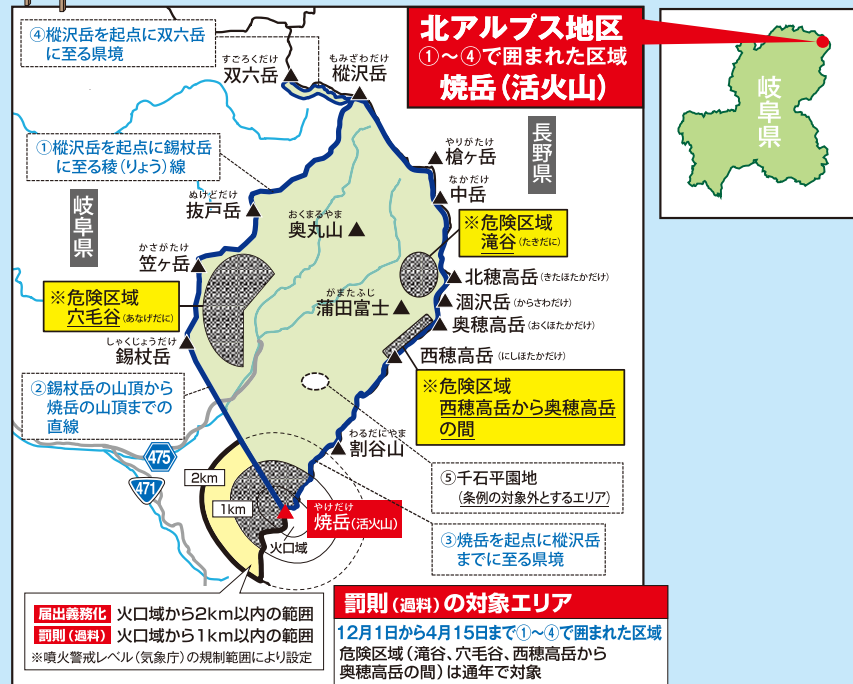




登山届は必ず提出しましょう

～無事帰る 家族の思い 登山届～



岐阜県北アルプス 登山ガイドブック



写真/岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会提供

登山届の提出は義務化されています！

岐阜県では、「**岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例**」を施行し、北アルプス地区、焼岳、御嶽山(注1)、乗鞍岳及び白山(岐阜県側)の登山に登山届の提出を義務化しています。登山される方は、必ず登山届を提出しましょう。

罰則 登山届を提出せず、又は虚偽の提出をして登山すると『5万円以下』の過料が科せられる場合があります。

(注1) 御嶽山は、平成26年9月27日の噴火により、入山規制している場所があります。
※火山には、立入り規制区域が設定されている場合があります。
詳しくは、気象庁HP及び岐阜県HPを確認してください。

編集 岐阜県防災課
岐阜県警察本部警備第二課
岐阜県警察山岳警備隊
岐阜県山岳遭難防止対策協議会
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会
発行 岐阜県防災課



岐阜県
岐阜県警察本部
岐阜県山岳遭難防止対策協議会
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会





▲ 弓折岳～笠ヶ岳

目 次

1 北アルプス山岳情報..... 1

- 北アルプスにおける遭難事故の特徴
- 北アルプス各山岳エリアの危険情報
西穂高岳エリア、奥穂高岳エリア、槍ヶ岳エリア、
双六岳・三俣蓮華岳・黒部五郎岳エリア、笠ヶ岳エリア、
焼岳エリア、乗鞍岳エリア
- 積雪期における危険地域
- 北アルプス雪崩発生危険場所（岐阜県側）
穴毛谷～左俣谷～秩父沢～大ノマ乗越方面
穂高平付近～左俣谷～飛騨沢～飛騨乗越方面
- 岐阜県のその他の山
白山・御嶽山・恵那山
- 各シーズンにおける注意点
春山シーズン・夏山シーズン・秋山シーズン・冬山シーズン
- 各シーズンの主な遭難事例
春山シーズン・夏山シーズン・秋山シーズン・冬山シーズン

2 登山届の提出が義務化

～無事帰る 家族の思い 登山届～ 10

- 何のために登山届を出すの？
- なぜ条例ができたの？
- 条例により何が変わったの？
- 登山届を出さないとどうなるの？
- 登山届には何を書くの？
- 登山届を出すにはどうすればいいの？
提出機関・オンラインによる届出・登山届ポスト設置場所
- 登山届を出したらどうすればいいの？
- 下山したらどうすればいいの？

【参考】登山届様式例

3 遭難しないために

～これだけは守ろう10のPoint～ 14

4 服装と持ち物 16

- 登山用品
- 衣類等
- 食糧等

登山は、自己責任において行わなければなりません。
それは、『計画から帰宅するまでの一切を自分でやり遂げる』ということです。

1 北アルプス山岳情報

北アルプス南部（岐阜県側）には笠ヶ岳、双六岳、槍ヶ岳、穂高連峰、焼岳などの日本を代表する山々が連なっています。

ほとんどが標高3,000m級の険しい岩稜であり、ルート上には多数のハシゴ場やクサリ場が設置されているなど危険な場所です。

■ 北アルプスにおける遭難事故の特徴

- 40歳以上の中高年層による遭難事故が大半を占めている。
- 70歳以上の高齢者による遭難事故も多く発生している。
- 単独登山者による遭難事故が多く発生しているが、11人以上の大人数での遭難事故も発生している。
- 登山届未提出者による遭難事故は相変わらず発生しているが、条例制定後、遭難事故に占める未提出者の割合は減少している。
- 遭難者は、男性の占める割合が圧倒的に高い。



■ 北アルプス各山岳エリアの危険情報

▶ 西穂高岳エリア ヘルメットの携行・着用を！

- 積雪期や残雪期は、千石尾根（新穂高ロープウェイ西穂高口駅～西穂山荘までの間）や西穂丸山付近は降雪やガスによりトレース（踏み跡）が分からなくなり、方向を見失いやすいので注意が必要です。
- 独標から西穂高岳山頂の間は大小13のピークが連続する切り立った岩稜帯です。この間は浮石も多く、落石、つまずき、雨や氷によるスリップが原因となる滑落、転倒遭難が多発しています。岩稜歩きの実験者がいないパーティーは独標までとすべきです。また、西穂高岳から奥穂高岳への縦走は北アルプスで最も険しい岩稜縦走ルートであり、体力、技術、経験、的確な気象判断ができる上級者向けのルートです。上級者以外は入山を控えましょう。
- この山域は夏の午後には積乱雲が発生しやすく落雷も多く、西穂山荘より上部では避難場所もないことから天候の変化には細心の注意が必要です。
- アプローチで利用するロープウェイは季節によって始発や最終便の時刻が変わり、また風速15メートルを越す場合は運休となるため、ロープウェイ及び西穂山荘への確認が必要です。

▶ 奥穂高岳エリア ヘルメットの携行・着用を！

- 旧荷継小屋跡地付近でのルートは、道迷いを原因とする遭難発生危険箇所です。荷継沢を横断して白出沢へ入ってください。
- 白出沢上部は、7月下旬でも雪渓が残っており、スリップによる転倒及び滑落事故が発生しています。雪渓が残る時期はアイゼン、ピッケルが必要です。

- 白出のゴルから奥穂高岳へ向かうハシゴ場は急な岩稜であり、雨天時や積雪期はスリップによる転落、滑落事故が発生しています。三点支持による移動など岩場歩きの基本を実践するとともに、自身が落石を引き起こさないよう、慎重な行動が求められます。
- 涸沢岳から北穂高岳の岐阜県側は、滝谷と呼ばれるロッククライミングエリアです。縦走ルートも岩稜の上り下りが続き、クサリ場、ハシゴ場があるため、浮石、落石によりバランスを崩し、転落、滑落事故が発生しており、慎重な岩場歩きが求められます。上級者以外の入山は大変危険です。
- 白出沢ルートは、落石、浮石が多く、バリエーションルートという認識が必要です。
- 奥穂高岳山頂から西穂高岳へ至る縦走ルートは切り立った岩峰が連続し、浮石も多いため、転落、滑落による死亡事故が多く発生しています。
近年は体力、経験、装備不足のまま縦走を敢行するパーティーが増え、疲労による行動不能、発病、道迷いを原因とする遭難も多発しています。大変、危険を伴う登山となるため、上級者以外は入山を控えてください。

▶ 槍ヶ岳エリア ヘルメットの携行・着用を！

- 新穂高温泉から槍平の間にある白出沢、滝谷は荒天時に増水し、渡渉が困難となる場合があるので無理は禁物です。増水時の渡渉中に流され死亡した事故も発生しています。また、積雪期は右俣谷に合流する各沢は雪崩が発生し、大変危険です。
- 積雪期は、槍平周辺でも南沢、中ノ沢、大喰沢、飛驒沢、奥丸山側などの各沢から発生する雪崩に警戒が必要です。
- 南岳新道は南沢からの登りでは西尾根の取付でのルートテープの確認、下りではヤセ尾根、ハイマツ帯の通行に注意が必要です。

▶ 双六岳・三俣蓮華岳・黒部五郎岳エリア ヘルメットの携行・着用を！

- 双六岳方面は、槍・穂高連峰に比べなだらかな斜面が多く、無雪期であれば技術的には初心者向けですが、登山行程は長く、体力を要するコースです。
この方面では近年、発病や疲労が原因の遭難が多発しており、持病や体力に応じた準備や登山計画が重要です。
- 双六岳周辺は残雪期のバックカントリースキーエリアとしても人気がありますが、左俣林道沿いの岩小舎沢、下抜戸沢、秩父沢、奥秩父沢などの沢は、稜線付近から発生する巨大な雪崩が林道まで達するため注意が必要です。
- 双六岳、三俣蓮華岳付近はなだらかな斜面であり、特に残雪箇所などは、ガスなどで視界不良となった場合、方向を見失いやすいので注意が必要です。
- 黒部五郎岳は新穂高温泉、飛越トンネルのいずれから入山しても行程が長くなり、疲労から行動に支障が出る場合があるので、各自の体力・技術に合わせ、ゆとりのある登山計画が必要です。

▶ 笠ヶ岳エリア ヘルメットの携行・着用を！

- 笠新道、クリヤ谷ルートの両コースとも行程が長いので、下山する際に疲労が重なり、木の根や石でスリップ・転倒する事故が発生していますので十分な体力と万全な体調管理

が必要です。

- 杓子平付近はガスなど視界不良時にルートが分かりにくいことがあります。笠新道はかなり急登のため体力差からパーティー内で別行動をとり、互いに連絡が取れず心配となって救助要請したという遭難も発生しており、統率のとれた行動が必要です。
- 積雪期は弓折岳から抜戸岳の稜線上に巨大な雪庇が発現します。雪庇の踏み抜きや崩落による滑落に注意が必要です。また、雪庇の崩落は、雪崩を誘発する原因ともなります。
- クリヤ谷ルートは行程が長く、エスケーブルートも無いことから初心者や体力に不安のある登山者は、入山を控えましょう。近年、疲労による転倒や行程が遅れて日没となり、道迷いとなった事案が発生しています。また、荒天時はクリヤ谷の渡渉点が増水し、通過が困難となるため無理をせず、待機しましょう。
- 穴毛谷は積雪期に周辺の沢筋などで発生する雪崩が集まり巨大雪崩が発生する大変危険なエリアですので入山は控えましょう。

▶ 焼岳エリア (活火山) ヘルメットの携行・着用を！

- 行程が短く、初心者向けのルートですが、鍋助横手付近は急斜面を横切るため谷側への滑落に注意が必要です。
- 新中尾峠から焼岳山頂の間は、視界不良や積雪により迷いやすいので注意が必要です。
- 焼岳は、今も活動が続ける活火山です。
山頂付近では現在も火山性ガスを含む噴気活動が継続しており、風の無い時の噴気孔や噴気地帯の窪地は大変危険です。絶対立ち入らないでください。また、火山情報を事前に確認し、ヘルメットなどの装備を準備し着用してください。

▶ 乗鞍岳エリア (活火山) ヘルメットの携行・着用を！

- 剣ヶ峰は標高3,026mですが、乗鞍スカイラインや整備された登山道を利用することで初心者でも短時間で登山することができます。
しかし、山岳地帯特有の厳しい気象状況となる場合が多いため、十分な登山装備が必要です。また高度に体を良く慣らして行動してください。
- なだらかで広い斜面が多いですが、整備されたコース以外は危険ですので立ち入らないようにしましょう。
- ガスなどで視界不良となると方向を見失いやすいため、特に夏の午後は周囲の天候に注意が必要です。
雷雲の接近など悪天候が予想される場合は、速やかに避難できる場所まで下山しましょう。
- 年により、畳平周辺では夏から秋にかけてツキノワグマの出没情報が頻繁にあり、警戒が必要です。



■ 積雪期における危険地域

岐阜県山岳遭難防止対策協議会では、次の2つの区域を積雪期における危険地域に指定しています。

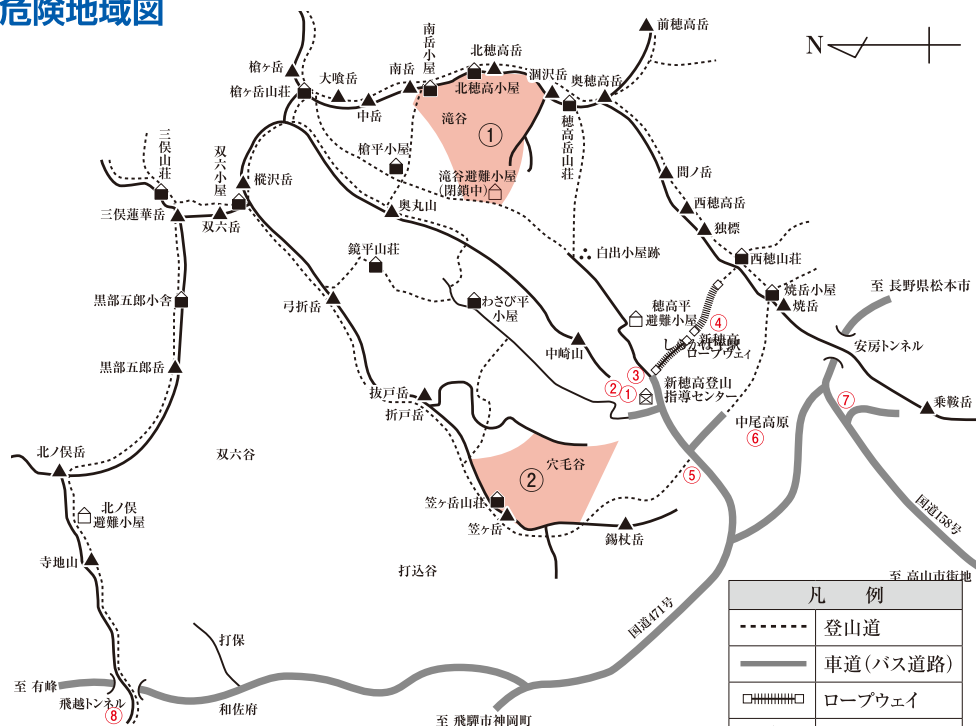
危険地域① 【下記危険地域図①参照】

南岳南西尾根～獅子鼻～北穂高岳～涸沢岳～蒲田富士で結ばれる滝谷・チビ谷流域

危険地域② 【下記危険地域図②参照】

クリヤノ頭～笠ヶ岳～抜戸岳～抜戸岳南尾根で結ばれる穴毛谷流域
(但し、杓子平を除く区域)

危険地域図



◀ 双六岳～笠ヶ岳

■ 北アルプス雪崩発生危険場所(岐阜県側)

▶ 穴毛谷～左俣谷～秩父沢～大ノマ乗越方面 【穴毛谷】

穴毛谷は、『雪崩の巣』であり、谷の中ではあらゆる方向から雪崩が発生するため積雪期は大変危険な場所です。

笠ヶ岳と抜戸岳の南側に位置する穴毛谷全域で大規模な雪崩が発生し、山スキーヤーが巻き込まれる事故も発生しています。

【左俣谷(左俣林道ワサビ平小屋付近～下抜戸沢付近)】

林道まで達する雪崩が多発する地域です。

岩小舎沢、下抜戸沢などの沢筋を中心に雪崩が発生するため、横切の際には注意が必要です。

【左俣谷(左俣林道下抜戸沢出合付近～大ノマ乗越)】

下抜戸沢等の抜戸岳東斜面からの雪崩を始めとする雪崩の多発地帯です。抜戸岳と弓折岳の東側斜面にある登山道や、下抜戸沢・奥抜戸沢・秩父沢・秩父小沢等あらゆる沢筋付近で雪崩が発生するおそれがあります。

▶ 穂高平付近～右俣谷～飛驒沢～飛驒乗越方面

【右俣谷(穂高平付近～滝谷出合付近)】

各谷、沢との出合は、全て要注意箇所です。

穂高平避難小屋、白出小屋跡、滝谷避難小屋(閉鎖中)付近登山道に隣接する柳谷・ネポリ谷・白出沢・ブドウ谷・チビ谷・滝谷などあらゆる谷・沢付近で雪崩が発生するおそれがあります。

【右俣谷(滝谷出合付近～飛驒乗越)】

各谷、沢との出合は、全て要注意箇所です。

南岳、中岳、大喰岳、槍ヶ岳の西側に位置する滝谷避難小屋(閉鎖中)、槍平小屋付近登山道に隣接する滝谷・南沢・中ノ沢・大喰沢・飛驒沢などあらゆる谷・沢付近及び同登山道西側に位置する各谷、沢付近で雪崩が発生するおそれがあります。

【奥丸山(槍平小屋付近)】

比較的安全とされている槍平付近も危険です。

奥丸山東側斜面に位置する各谷・沢付近で槍平小屋付近登山道へ向かって雪崩が発生しています。

配意事項

- ☆ 気象の確認!
- ☆ 万全の装備!
- ☆ 余裕を持った計画(日程・技量)

※ ここで示す場所以外でも雪崩が発生する場合があります。
入山する際は常に雪崩・雪庇の崩落などに警戒が必要です。



■ 岐阜県その他の山

▶ 白山（活火山） ヘルメットの携行・着用を！

- 山頂に通じるルートは、いずれも長距離であるため、冬期は山中泊が必要です。
- 白山は日本海に近いため、冬期間は荒天の日が多く、登山日程が予定よりも長くなる場合があることから十分な予備装備・予備日などが必要です。
- 頂上付近は、風雪がひどく、また、弥陀ヶ原は広いので道に迷う危険性が高くなります。
- 雪崩の危険性も高く、注意が必要です。

▶ 御嶽山（活火山） ヘルメットの携行・着用を！

- 登山道は整備されていますが、冬期間は積雪量が多く、かなりの時間を要することから余裕を持った登山計画を立ててください。
- 強風で雪面が固くなっているため、アイゼン歩行は慎重に行いましょう。
- 悪天候時には、ルートを見失ったり、自分の位置が分からなくなるので注意が必要です。

▶ 恵那山

- 12月から翌年の4月下旬頃までは積雪があり、完全な冬山装備が必要です。吹き溜まりも所々にあり通常の倍以上の行動時間を必要とします。

▶ 活火山 ヘルメットの携行・着用を！

- 焼岳、御嶽山、乗鞍岳、白山、アカダナ山は、活火山です。噴気地帯には長時間留まらないでください。万が一に備え、ヘルメットなどを着用し、自分の身を守りましょう。また、北アルプス地区と活火山地区（焼岳、御嶽山、乗鞍岳、白山）は、登山届提出を義務付けるエリアです。必ず、登山届を提出しましょう。

※火山には立入り規制区域が設定されている場合があります。
詳しくは、気象庁HP及び岐阜県HPを確認してください。



◀ 焼岳

■ 各シーズンにおける注意点

春山シーズン

降雪など、天候の急変に注意！

ふもとは初夏の装いでも山では天候が急変すれば降雪もあり、冬山に様変わりします。低気圧の通過に伴い、気温の急降下、突風や落雷が発生することも珍しくありません。防寒着、アイゼン、ピッケルなどの積雪期の登山装備が必要です。

雪崩に注意！

気温の上昇などに伴う雪崩、雪庇の崩壊・踏み抜きに十分な注意が必要です。雪崩注意報が発表されていなくても雪崩が発生することもありますので常に注意が必要です。特に各沢筋のルートは、新雪が積もった後に不安定となり表層雪崩が発生する危険性が高くなります。

滑落に注意！

残雪により登山道はほとんど見えません。北アルプスの稜線付近は急峻なルートが多いため雪上スリップによる滑落の危険性が高く、また、残雪期には雪渓などのスノーブリッジでの踏み抜きなどにも注意が必要です。

夏山シーズン

転落、スリップ、落石に注意！

穂高連峰一帯は、急峻な岩場で浮石も多いため特に下山中につまずいたりバランスを崩しての転倒や滑落・転落による事故が多く、注意が必要です。また、落石を警戒するとともに、自身が落石を発生させない配慮も必要です。

ガスの発生に注意！

夏山では午後からガス(雲)が発生することが多く、落雷の危険もあるため目的地への早出早着に心がけましょう。

低温に注意！

山岳地帯では高度による低温に加え、強風が吹くため夏山シーズンであっても低体温症の危険があり、速乾性の下着や防水透湿素材の雨具の携行など濡れ対策が重要です。荒天時の行動は控えるなど、常に慎重な行動判断を要します。

秋山シーズン

天候の急変に注意！

秋山は、天候が変わりやすいのが特徴です。台風や前線の通過などにより山岳地帯の気象は大きく変化します。常に情報収集を行い、登山の中止や引き返しなどの確かな判断が必要です。

防寒対策を確実に！

ふもとでは残暑が続いていても、山の上では確実に季節が変化しています。例年、9月中旬には初氷、10月には初雪・積雪となりますので積雪期の登山装備が必要です。

冬山シーズン

滑落に注意！

稜線上は、特にアイスパーン状態となるので滑落に注意しましょう。山小屋などに危険箇所を問い合わせ、危険箇所の情報収集をしましょう。

道迷いに注意！

吹雪、濃霧のため視界が悪く、道に迷うことがあるので注意しましょう。

雪崩に注意！

雪崩には十分な注意が必要です。

雪庇に注意！

例年、強風により稜線では雪庇が大きく張り出します。

雪庇の崩壊、踏み抜きに十分な注意が必要です。

天候の急変、断続的な降雪に注意！

降雪が数日間にわたる恐れがあるため、十分な装備と余裕を持った登山計画を立てる必要があります。



◀ ピラミッドピーク
～西穂高岳

各シーズンの主な遭難事例

春山シーズン

滑 落	2名パーティーで洞沢岳から下山中、夏道が出ていたことからアイゼンを外して行動中、部分的に雪が残っている場所をそのまま通行したために凍っていた箇所です足を滑らして1名が滑落。これを目撃した同行者も救助しようとした際に滑落し、1名死亡、1名が重傷。
滑 落	単独登山で、奥穂高岳からの下山中、雪庇(※1)を踏み抜いて滑落し重傷。
滑 落	7名パーティーで入山し、1名が雪の斜面で足を滑らせ転落し骨盤を骨折。そのまま登り続けたが痛みに耐えきれず救助要請。
落 石	2名パーティーで新穂高から入山し、白出沢(岐阜県側)を登り、扇沢(長野県側)へスキーで降りる予定であったが、穂高岳山荘手前約30m付近で約20cmの石が遭難者1名を直撃(ヘルメット装着有)。後方へ倒れ約900m下方へ滑落し死亡。登山届未提出
道迷い	3名パーティーで入山し、奥穂高岳間違い尾根付近で遭難者本人から「道に迷った」と救助要請。翌日、搜索を開始したところ、通報者は生存していたものの死亡している2名を発見し、収容。

夏山シーズン	滑 落	4名パーティーで白出沢雪渓(※2)を下山中、アイゼン・ピッケル等を所持していなかったため滑落し、重症。登山届未提出
	滑 落	滝谷でクライミング中にホールドの岩が浮石で、これが抜けて約10m滑落し、重傷。
	道迷い	笠新道を下山する予定であったが、雪が付いていたことから小池新道へ向うも弓折れ分岐付近で道に迷ったもの(無傷)。
	疲 労	3名パーティーが三俣山荘を出発し小池新道を下山中、1名が疲労により行動が遅れ出し日没になった。同パーティーにヘッドランプが1つしかなく、また疲労により行動不能となり救助要請(無傷)。登山届未提出
	その他	滝谷出合付近にいた数名の登山者が、水が出ていたものの少量であったことから徒渉を試みたところ、最後の1名が渡渉する際に急激に増水し流され、前後にいた2名も流され行方不明となった。もう1名は川岸の岩を掴み他の登山者に助けられ一命を取り留めた。

秋山シーズン	滑 落	奥穂高岳から西穂高岳へ縦走し、ジャンダルムから下山途中に滑落し重傷。
	滑 落	2名パーティーで奥穂高岳から西穂高岳へ向けて縦走中、独標北側直下の鞍部付近で足を滑らして滑落。同行者が搜索したところ、稜線から100m滑落している遭難者を発見し救助要請(重傷)。登山届未提出
	発 病	4名パーティーで弓折岳へ向け小池新道を登山中、うち1名が嘔吐と同時に倒れ、心筋梗塞にて死亡。登山届未提出
	悪天候	洞沢岳を通行中の登山者より、登山道上に登山者が倒れているとの通報があり、山岳警備隊が確認したところ、登山者は凍死。服装は極めて軽装で、前日は降雪と約20mの風が吹いており、発見時には登山者の体に約2cmの積雪が有り。登山届未提出

冬山シーズン	滑 落	ロープウェイ山頂駅で働いている従業員が、通常ルートと異なる小鍋谷を下山している登山者を発見し通報。山岳警備隊が確認したところ、ビバークをしようとしている様子が見られたため遭難事故と判断し救助。遭難者は稜線から滑落し、低体温などから精神錯乱状態であったが、一命を取り留めた。登山届未提出
	滑 落	西穂高岳へ向けて単独登山中、上高地側へせり出した雪庇(※1)を踏み抜き約100m滑落。目撃した他の登山者から救助要請(重傷)。登山届未提出
	滑 落	6人パーティーで1名が岩壁で足を滑らせ、そのまま約400m滑落し重傷。
	悪天候	3名パーティーで西穂高岳を目指し登山中、西穂高岳南方コル付近にて悪天候などの理由から行動不能に陥り救助要請。1名が凍死。

(※1) 雪庇(せっぴ)

雪庇とは、雪のかぶった山の尾根、山頂などで、風が一方方向に吹き、風下方向にできる雪の庇である。放置すると、自重に負けて崩落するまで際限なく大きくなる。

登山者が稜線と誤って雪庇の上を歩いて踏み抜き、谷へ滑落するため、崩壊するとブロック雪崩の原因となる。

(※2) 雪渓(せっけい)

雪渓とは、高山など標高の高い場所の谷や沢の積雪が溶けずに残った地帯である。

雪渓は、スノーブリッジ形状を呈し、下部には沢があり水流があることが多く、雪渓を踏み抜き、転落する事故が多い。

2 登山届の提出が義務化 ～無事帰る 家族の思い 登山届～

登山に行くときは、県や入山口を管轄する警察署などに必ず登山届を提出してください。
また家族・所属する山岳会（クラブなど）・職場・学校などに行き先や登山日程等を連絡しておきましょう。

これまでも登山届を提出したおかげで、救助活動が迅速に行えたという事例が数多くあります。

■ 何のために登山届を出すの？

- 登山届作成時に自身の登山計画を見直し、技術や体力に見合った計画づくり、装備品や食糧などの事前準備を行うことができます。
- 万一、事故に遭ったとき、避難場所を特定しやすく、迅速な搜索救助活動を行うことができます。
- 事故発生時、家族や関係者と素早く連絡を取ることができます。

■ なぜ条例ができたの？

近年の登山ブームにより、岐阜県内の山々への登山者も増加しましたが、無謀な登山者（技術・装備・知識不足）による山岳遭難も増加し、平成25年当時の遭難件数は、過去最悪を記録しました。

山岳遭難防止のため各種啓発活動に取り組んできましたが、登山届を提出していない登山者が多いことから、県内遭難事故の約6割を占める「北アルプス地区」を対象に平成26年12月、登山届の提出を義務化し、平成28年12月に罰則を適用しました。

また、平成26年9月、戦後最悪の火山災害である御嶽山噴火が発生し、登山届が迅速な安否確認及び搜索救助活動に有効であったことから、平成27年4月、焼岳・御嶽山において登山届の提出を義務化し、平成28年12月に白山、令和3年12月に乗鞍岳でも登山届の提出を義務化しました。

（他県から入山し岐阜県側の対象エリアに入する場合も、条例の対象となります。）

■ 条例により何が変わったの？

「北アルプス地区と活火山地区（御嶽山・焼岳・白山・乗鞍岳）」を登山する方は登山届の提出が必要となります。

■ 登山届を出さないとどうなるの？

5万円以下の過料が科せられる場合があります。

■ 登山届には何を書くの？

- 登山者の住所・氏名・性別・年齢
- 登山の期間・行程
- 装備品・飲料水や食糧の状況
- 緊急時の連絡先
- 登山活動団体などへの加入状況
- 通信手段の状況
- 山岳保険への加入状況 等

※P13にある「登山届様式例」を参考にしてください。

■ 登山届を出すにはどうすればいいの？

各登山口などに設置してある登山届ポストへ投函、下記掲載機関への提出、郵送、FAX、オンラインによる届出（登山アプリ、メール）など各種方法で受け付けています。



登山届ポスト(右俣林道起点)▶

提出機関

岐阜県 危機管理部防災課 山岳遭難・火山対策係	〒500-8570 岐阜市数田南2-1-1 TEL: 058-272-1111 FAX: 058-271-4119 H P: http://www.pref.gifu.lg.jp/ Mail: gifu-tozan@govt.pref.gifu.jp
岐阜県警察本部 警備第二課	〒500-8501 岐阜市数田南2-1-1 TEL: 058-271-2424 (内5732) H P: http://www.pref.gifu.lg.jp/police/ Mail: gifupolice-tozan@govt.pref.gifu.jp
岐阜県高山警察署 又は近隣の交番・駐在所	〒506-0851 高山市大新町5-68-1 TEL: 0577-32-0110 FAX: 0577-32-6709
岐阜県飛騨警察署 又は近隣の交番・駐在所	〒509-4252 飛騨市古川町朝開町1401 TEL: 0577-73-0110 FAX: 0577-73-6612
岐阜県北アルプス山岳 遭難対策協議会事務局	〒506-1421 高山市奥飛騨温泉郷神坂710-9 新穂高センター内 TEL・FAX: 0578-89-3005 H P: https://www.kitaalpsgifu.jp/ Mail: info@kitaalpsgifu.jp
コンパス	公益社団法人日本山岳ガイド協会 H P: https://www.mt-compass.com/
ヤママップ	株式会社ヤママップ H P: https://yamap.com/

※上記に掲載されているいずれかの機関に提出した場合、岐阜県知事に提出したものと認められます。

オンラインによる届出

北アルプス山岳
遭難対策協議会



コンパス



ヤママップ



山岳自然ネットワークコンパス
Compass

※「コンパス」は(公社)日本山岳ガイド協会が運用管理する登山届受理システムです。

YAMAP

※株式会社ヤママップが運用管理する「登山地図GPSアプリ」で登山届も提出できます。

登山届ポスト設置場所 P4の危険地域図参照

番号	設置場所	対象山岳、方面
① ☒	新穂高登山指導センター窓口 (高山市奥飛驒温泉郷神坂地内)	笠ヶ岳、双六岳、西穂高岳、 奥穂高岳、槍ヶ岳 など
② ☒	左俣林道ゲート脇 (高山市奥飛驒温泉郷神坂地内)	笠ヶ岳、双六岳、三俣蓮華岳、 黒部五郎 など
③ ☒	右俣林道起点 (高山市奥飛驒温泉郷神坂地内)	奥穂高岳、南岳、北穂高岳、 槍ヶ岳 など
④ ☒	新穂高ロープウェイしらかば平駅	西穂高岳、西穂丸山、 独標 など
⑤ ☒	クリヤ谷登山口 (高山市奥飛驒温泉郷神坂地内クリヤ谷入口)	錫杖岳、笠ヶ岳、 黒部五郎岳 など
⑥ ☒	焼岳中尾登山口駐車場 (高山市奥飛驒温泉郷中尾地内)	焼岳 など
⑦ ☒	乗鞍岳登山口 (高山市奥飛驒温泉郷平湯温泉地内 お食事処あんき屋出入口脇)	乗鞍岳
⑧ ☒	北ノ俣岳登山口 (飛驒市神岡町打保地内 飛越トンネル南方広場)	寺地山、北ノ俣岳 など

※番号下 =ステンレス製 =木製

各登山届ポストの位置はP4「危険地域図」にあります。

■ 登山雇を出したらどうすればいいの？

● 登山届ポストへ投函された方

新穂高登山指導センター又は登山届
ポストに備え付けの“届出済証”を持参
して登りましょう。なお、届出済証は下
山届として使用できます。

下山時に登山ポストに投函してください。

● オンラインによる届出をされた方

システムから返信された画面を印刷
又は保存の上、携帯して登りましょう。

● 郵送、FAX、メールで届出をされた方

登山届の写しを携帯して登りましょう。



■ 下山したらどうすればいいの？

下山したら登山届ポストなどに下山届を提出し、下山の報告をしましょう。下山届は登山届ポストに置いてあるものの他、登山届届出済証や任意の様式のものでも構いません。

また、登山に行くことを伝えた家族などに、下山した連絡をすることも大切です。

参考 登山届様式例 ※様式については、異なる場合があります。

表面

[illegible]

裏面

[illegible]

3 遭難しないために ～これだけは守ろう10のPoint～

Point 1 余裕のある日程で計画を立てる！

登山のスタートは、自分の経験や技術、体力などを把握・勘案し、余裕ある日程でコースを決定し、参加者全員が携行装備品などを検討して計画を立てることで。

計画に無理があったり、装備が不十分な場合は、遭難につながってしまうことを肝に銘じてください。

Point 2 山岳保険に加入！

遭難などの有事を想定し、山岳保険に加入しましょう。
長期間にわたる捜索には莫大な費用がかかることがあります。



Point 3 「登山届」は必ず作成、提出を！

登山届(計画書)の作成は、重要な最初の第一歩です。
県、入山口を管轄する警察署などへ必ず提出してください。
家族などに行き先、登山日程などを連絡しましょう。

登山届の作成・提出には、スマホアプリ「コンパス」「YAMAP」や北アルプス遭対協のHPの利用が便利です。※11p参照

Point 4 余裕のある日程と、十分な装備を！

山は、天候が急変するものです。

予定を変更して滞らせざるを得ない場合もあることから、余裕のある日程で、無理な行動は避け『早出・早着』を心がけましょう。(日没の2時間前には下山若しくは山小屋へ到着できる日程)

また、道迷いによる遭難防止のために、登山マップや方位磁石などの必需品はもちろん、燃料・食糧・医療装備・ヘルメットなどを準備するとともに、ラジオ・携帯電話・無線機も携行し活用しましょう。(日本山岳ガイド協会のアプリ「コンパス」、株式会社ヤマップのアプリ「YAMAP」などを利用した現在地確認など)

※各機器の電池・バッテリーは保温措置をするとともに、予備も準備しておきましょう。

Point 5 単独登山は大きなリスク！

単独登山は、疲労や怪我で行動できなくなった場合に助けを呼ぶことができず、捜索・救助が開始されるまでに時間がかかるなど、大きなリスクがあります。

できるだけパーティーを組んで登りましょう。

Point 6 体調管理は万全に！

発病のため登山中に倒れ行動不能となり、救助を求めるケースが目立ちます。入山前にはトレーニングを行い、必要により病院などで診察を受け、医師に相談するなど、体調管理を万全にして登山してください。

登山中は、意識的に仲間と声を掛け合い、こまめに休憩をとって糖分・水分を補給し、心身をリフレッシュしましょう。

Point 7 リーダーの責任は極めて重大！

リーダーは、全員をまとめ安全を最優先にした統率のとれた行動をさせるとともに、状況によっては引き返す決断も求められます。

リーダーは、メンバー全員の命を預かっているのです。

Point 8 天候・気象判断は的確に！

天候・気象判断のミスは生命に関わる遭難につながります。

山岳地帯では天候が急変しやすく、低気圧や前線による影響も平地より早く始まり、遅くまで残るため、最新の気象情報を入手し、早めの判断が必要です。

春山……短い周期で天候が大きく変化し、吹雪となることもあります。冬山と同じ条件となることを想定しておきましょう。

夏山……局地的豪雨、落雷に注意が必要です。

また、夏山であっても気温が10℃以下となり、低体温症を発症し、行動不能となる恐れもあります。

秋山……昼夜の寒暖の差が激しく天候の急変により雪となることもあります。また、台風シーズンでもあります。

冬山……年間で降雪が最も多い時期です。数日間にわたる吹雪などで行動できなくなることがあります。

天気予報サービス

● テレホンサービス

気象情報自動応答電話(気象庁)：03-5422-1018

● NHKラジオAM

飛騨高山地域：792kHz 飛騨神岡地域：1341kHz

Point 9 雪崩に注意！

過去の遭難事例を研究するなど雪崩多発地帯を事前に把握し、多発地帯には近づかないようにしましょう。

雪崩による遭難時の救助の際に非常に有効なビーコン(発信器)などの装備品を携行するとともにテントサイトやルートの選定を慎重に行うほか、ラジオなどの天気予報サービスを利用して積雪、降雪の状況や気温の変化などタイムリーな情報を入手しましょう。

Point 10 火山性ガスに注意！

焼岳、御嶽山の山頂付近では現在も火山性ガスを含む噴気活動が続いています。風のない時の噴気孔や噴気地帯の窪地は危険です。

危険箇所には絶対立ち入らないでください。

4 服装と持ち物

北アルプスは、標高3,000m級の山が連なる山岳地帯です。

天候の急変や気圧の変化など自然条件は厳しく、夏でも朝夕は気温が10℃以下になることがあります。

ハイキング気分で登ると思わぬ事故に遭遇します。

下記一覧表を参考に遭難防止、非常時に有効な装備品を準備してください。

なお、テント泊や厳冬期の入山、岩登りなどにはそれぞれの用具が必要になります。



■ 登山用品

◎：必需品 ○：状況によっては持参のもの △：あれば便利な物

品 名	無雪期	積雪期	チェック欄	備 考
登山靴	◎	◎		防水透湿性でハイカットのもの
防水袋	◎	◎		予備のウェアなどを収納
ストック	△	△		バランスを保ち、足腰の負担軽減目的
ピッケル	○	◎		滑落防止の必需品、無雪期でも雪渓上は必要
アイゼン	○	◎		滑落防止の必需品、無雪期でも雪渓上は必要
ビーコン、スコップ、プローブ		○		雪崩遭難対策には必携
ヘッドランプ	◎	◎		防水LEDタイプがよい、予備電池必要
サングラス・ゴーグル	○	◎		積雪期は雪目防止のために必要
ナイフ	◎	◎		緊急時に重宝
ホイッスル	◎	◎		非常時に居場所を周囲に知らせるため
腕時計	◎	◎		コンパス・高度気圧計機能付が便利
コンパス	◎	◎		事前にルートナビゲーションの練習を
地図	◎	◎		1/25,000地形図または登山地図を準備
ハンディGPS機器	△	△		現在地の把握や行動記録のため
高度計、気圧計、温度計	△	△		現在地の把握のため
ガイドブック	◎	◎		必要箇所をコピーして携帯
筆記用具	◎	◎		行動記録などに利用
携帯電話、予備電池	◎	◎		機器の保温や不感地帯では電源オフ

品 名	無雪期	積雪期	チェック欄	備 考
無線機	○	○		携帯電話不感地帯で有効な通信手段
ラジオ	△	△		気象情報の入手に便利
ロールペーパー	◎	◎		芯を抜き、防水袋に入れて携帯
救急用品、常備薬	◎	◎		
ツェルト	◎	◎		ビバークシェルターとして必要
キャンドル、防災マッチ	◎	◎		ビバーク時の灯り、暖房に有効
身分証明書、健康保険証	◎	◎		

■ 衣類等

◎：必需品 ○：状況によっては持参のもの △：あれば便利な物

品 名	無雪期	積雪期	チェック欄	備 考
帽子、ヘルメット	◎	◎		熱射病、頭部保護のため
目出帽		◎		凍傷防止のため
レインウェア	◎			防水透湿素材のもの
アウタージャケット		◎		防水透湿保温効果の高いもの
防寒着（フリース・ダウン）	◎	◎		山地では夏でも10℃以下となる
アンダーウェア（下着）	◎	◎		速乾性のものとし、綿素材は避ける
替えアンダーウェア	◎	◎		下着が濡れた場合の体温維持のため
機能性アンダーウェア	△	△		筋力サポートタイツなどは有効
手袋、グローブ	◎	◎		手の保護、保温のため
スパッツ	◎	◎		靴内への異物侵入防止のため
タオル、手ぬぐい	◎	◎		様々なものの代用品として有効

■ 食糧等

◎：必需品 ○：状況によっては持参のもの △：あれば便利な物

品 名	無雪期	積雪期	チェック欄	備 考
食糧、飲料水	◎	◎		行程に合わせ必要量を持つ
保温ボトル	△	◎		積雪期は飲料水の凍結防止のため必要
非常食	◎	◎		ビバーク等緊急時に必要不可欠
ストーブ、コンロ	○	○		積雪期など熱湯が必要な場合に有効
クッカー（炊事用具）	○	○		
ライター	◎	◎		緊急時に重宝